

投資事業評価調書（継続：再評価）

部課室名	県土整備部土木局 港湾課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	港湾課長 芝原 平 (海岸・防災係長 平井 住夫)	内線	4440 (4452)
------	-----------------	---------------------	------------------------------	----	----------------

事業費目	海岸事業	事業名		事業区間	総事業費	約 28 億円
		福良港海岸高潮対策事業		福良地区	内用地補償費	約 2 億円
所在地		事業採択 年 度	着工年度	完成予定 年 度	進捗率 (内用補進捗率)	42% (43%)
南あわじ市福良		平成 8 年	平成 8 年	平成 22 年	残事業費	約 16 億円
事業の目的				事業内容		
当海岸背後の福良市街地は低地帯であり、たびたび台風時の高潮による浸水被害を受けてきた。このため護岸（補強）及び排水機場の整備を進めてきた。しかし、港内には護岸及び胸壁等の未整備箇所が残ることから、引き続き整備を行い、一連の防潮ラインを構築し、住民の安全と安心を確保するとともに、南海地震津波による被害の減災を図る。				護岸（補強） 30m 排水施設 1 式 護岸 725m 護岸（改良） 80m 胸壁 510m 樋門 2 基 陸閘（改良） 1 式	[負担割合 国:1/2 , 県:1/2]	
事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化		・ 近年、水害等の自然災害が多発していることから、防災事業の必要性は高まっている。				
進捗状況		・ 排水機場は平成 17 年度に完成予定である。 ・ 護岸（補強）工 30m は完成している。 ・ 引き続き、天端高が不足している護岸、胸壁、陸閘（改良）等の整備を行う。 ・ 当事業は、概ね事業計画どおり進捗している。				
評価視点		評価結果の説明				
(1) 必要性 安全・安心		・ 当地区の背後には、住宅や商店が密集している。また、国道 28 号や南あわじ市南淡庁舎等公共施設が位置しており、ひとたび高潮が発生すると、護岸等の未整備区間から浸水し、甚大な被害が発生するおそれがある。本事業を実施することにより、未然に高潮被害を防止でき、住民の「安全」と「安心」が確保できる。				
地域の活性化		・ 当施設の防護区域には、経済活動の拠点となる金融機関や商店及び水産加工場等が多数あるため、高潮時の浸水被害を防止できることにより、経済活動の停滞を未然に防止することができる。				
快適性・ゆとり		・ 護岸未整備箇所は、住民が水際線に容易に近づけない箇所が多い。このため、当施設を整備することにより、安心して水辺の散策ができるようになり、親水性の向上が期待できる。				
(2) 有効性・効率性 有効性・効率性		・ 費用便益費 B / C = 8 . 5 ・ 残事業区間を整備し、全施設が完成することによって、高潮対策の効果が発現される。 ・ 今後、南海地震津波の減災対策の一役を担うことになり、有効な事業である。				
(3) 環境適合性		・ 本事業は、既設護岸前面に護岸を新設するため、環境や景観に与える影響は少ない。				
(4) 優先性		・ 未完成部分からの浸水を防ぐため、早期に事業を完成させる必要がある。 ・ 喫緊の課題となっている南海地震津波の減災対策として、早急に実施する必要がある。				
再評価 の結果	継続妥当	左 の 理 由	事業の必要性は、事業採択時と何ら変わっておらず、地域住民の「安全」と「安心」を確保するため、継続して事業を実施する必要がある。			